

冬の転倒災害を 振り返ろう

2021年度に発生した業務中の転倒災害が、最も多かったのが、1月（32%）で、続いて2月（14%）でした。今年度に発生した転倒災害を、振り返ってみましょう。

【業務災害】

事故型	件数	割合
切れ・こすれ	9	25.7%
転倒	7	20.0%
無理な動作	6	17.1%

【通勤災害】

事故型	件数	割合
転倒	16	72.7%
追突	2	9.0%
以下同数	(1)	(4.5%)



◆4日以上の休業災害となった転倒災害の一例◆

- ・現場写真を撮影中に、鉄骨に足を滑らせた（休業36日）
- ・雨靴で歩行中に、凍った路面に足を滑らせた（休業10日見込）
- ・自転車を走行中に、積雪にタイヤを滑らせた（休業14日見込）

転倒を防ぐ行動

転倒災害の経緯を見ると、防ぐ行動がみえてきますね。休業となれば何日も痛い思いをして、収入面にも影響が出てしまいます。

- ①書類やスマホを見ながら歩かない
- ②レインシューズやスノーブーツなど天候に合わせた靴を履く
- ③時間に余裕を持つ



転倒につながる原因

冬季に注意するのは凍結ですが、それだけではありませんよ。



- ①滑り
路面の凍結や積雪、床に水や油がこぼれている、床にビニールや紙が落ちている
- ②つまづき
段差や凹凸、床に荷物が置かれている
- ③踏み外し
足元が見えない状態で作業を行っていた

冬の交通安全

冬は暗い色の上着を着ている人が多く、歩行者の視認性が低くなります。他の季節と比べ、より慎重な行動が求められます。

車は止まってくれません

あなたが、信号のない横断歩道を渡ろうとしている時、停車する車は10台に3台です！

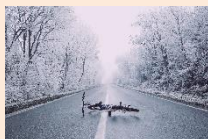
「車は止まる」と思い込まず、左右を確認して渡りましょう。



JAF：信号機のない横断歩道での一時停止状況全国調査（2121年）

冬の交通安全3カ条

- ①反射材を身につける
- ②降雪や積雪、気温の低い日は、冬装備をしていないバイクや、自転車には乗らない
- ③眠気があるときはパーキングなどで休む



体調がすぐれないと感じたら

体調が崩し始めたら、かかりつけ医や最寄りの医療機関に電話で相談をしましょう。早めの受診が、早い回復につながりますよ。

記録をとりましょう

新型コロナウイルス感染症の陽性が判明したときに慌てることがないように、記録をとることを習慣にしましょう。

- ①マスク非着用で15分以上の会話をしましたか
- ②体調を崩す2日前は、どう過ごしていましたか

厚労省：自宅療養をされる皆様へ

正しく予防できていますか？

すっかりとマスクや手洗いが習慣になり、日々感染予防をされていることでしょうか。しかし、それは正しいでしょうか？日頃の対策を、動画でチェックしてみましょう。

厚労省：正しい手洗いの方法

厚労省：正しいマスクの付け方



来月の行事 ①春季全国火災予防運動 ②車両火災予防週間 ③自殺対策強化月間